

山武市商工会山武市経済動向調査（R6→R7の変化）

1. 調査対象

5業種（卸・小売/サービス/建設/飲食/製造）の各20社。

2. 調査方法

ヒアリングおよび決算書比較によるアンケート記入

3. 調査項目

【質問1】 下記16項目の前年と比較しての状況（増加/不変/減少/該当なし）※

- ① 売上高②客単価③客数④商品等の価格転嫁※⑤商品仕入額⑥商品仕入単価
 - ⑦商品在庫数量 ⑧従業員⑨求人の状況 ⑩外部人材 ⑪借入金利 ⑫資金繰り
 - ⑬長期資金借入難度 ⑭短期資金借入難度（含 手形割引）⑮後継者の有無※⑯業況※
- ※価格転嫁は、容易（青）/不変（橙）/困難（灰）
※後継者は、いる（青）/必要だがいない（橙）/必要ない（灰）
※業況は、好転（青）/不変（橙）/悪化（灰）

【質問2】

設備投資を実施したかとその内容

投資の内容は以下8項目から選択

- ① 土地②店舗③販売設備④車両・運搬具⑤付帯設備⑥OA 機器⑦福利厚生施設⑧その他

【質問3】

現在直面している経営上の問題点（1位と2位）を下記17項目から選択

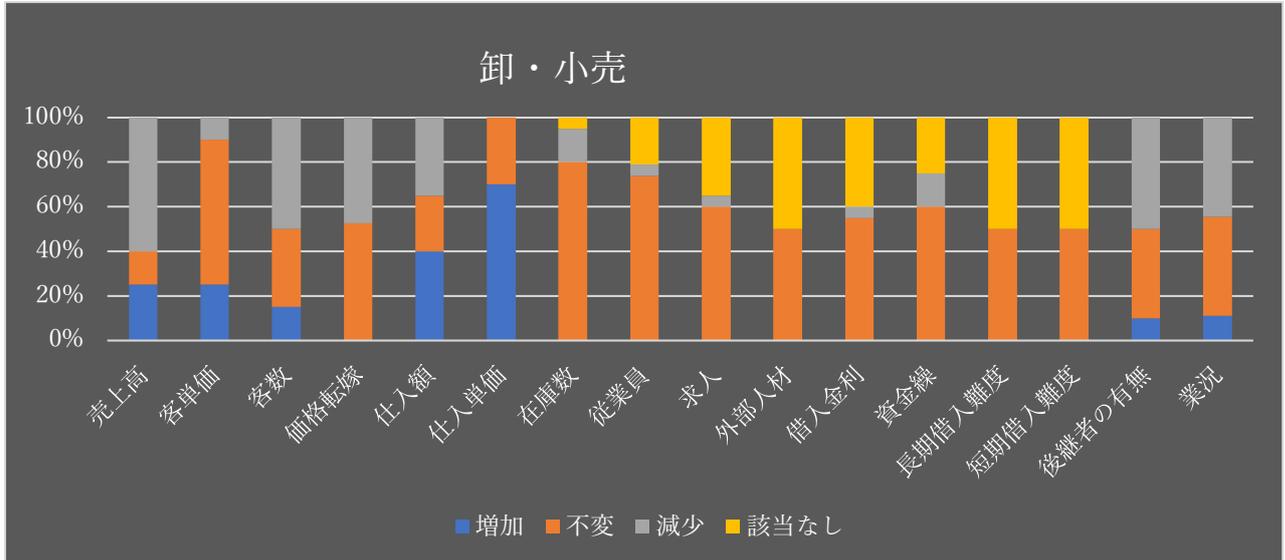
1位に選ばれた項目は2点、2位に選ばれた項目は1点として、各項目をポイント付けした。

- ① 大型店・中型店の進出による競争の激化
- ② 販売単価の低下・上昇難
- ③ 同業者の進出
- ④ 消費者ニーズの変化への対応
- ⑤ 購買力の他地域への流出
- ⑥ 需要の停滞
- ⑦ 仕入単価の上昇
- ⑧ 商品在庫の過剰
- ⑨ 人件費の増加
- ⑩ 従業員の確保難
- ⑪ 金利負担の増加
- ⑫ 事業資金の借入難
- ⑬ 人件費以外の経費の増加
- ⑭ 代金回収の悪化
- ⑮ 店舗の狭隘・老朽化
- ⑯ 駐車場の確保難
- ⑰ その他

4. 調査結果

4. 1 状況全般に関する調査結果

【卸・小売】



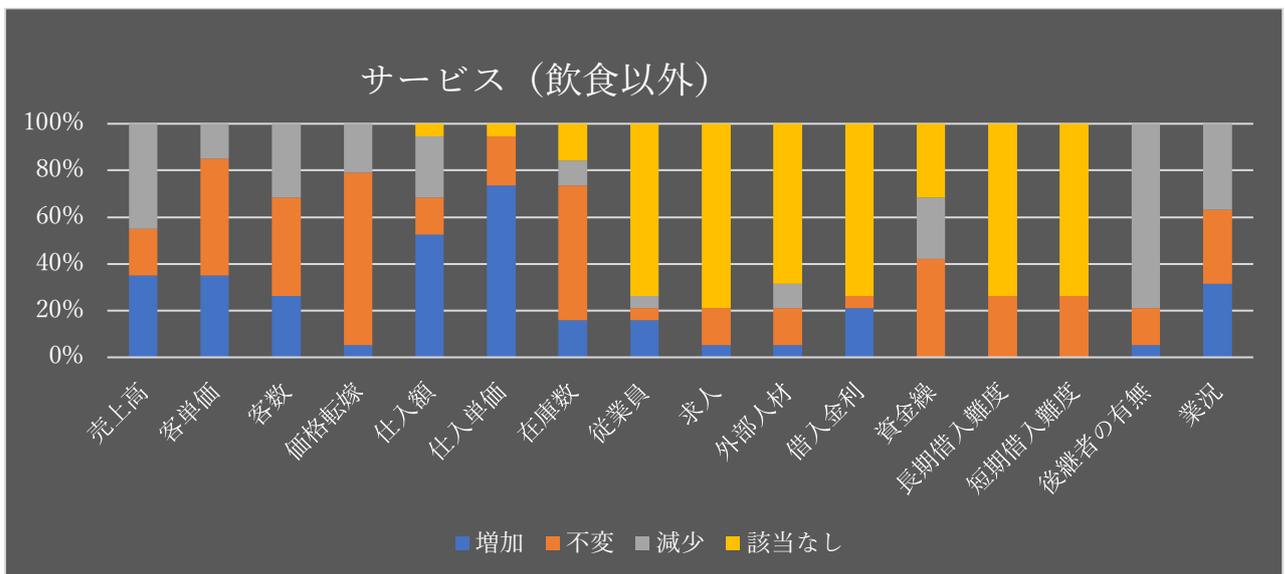
○客単価は良化傾向だが、客数は半数が減少で、売上高は若干悪化傾向。

○仕入単価の上昇が最も顕著。

○価格転嫁は進んでいない。

○業況は悪化、変わらず が拮抗。

【飲食以外のサービス】



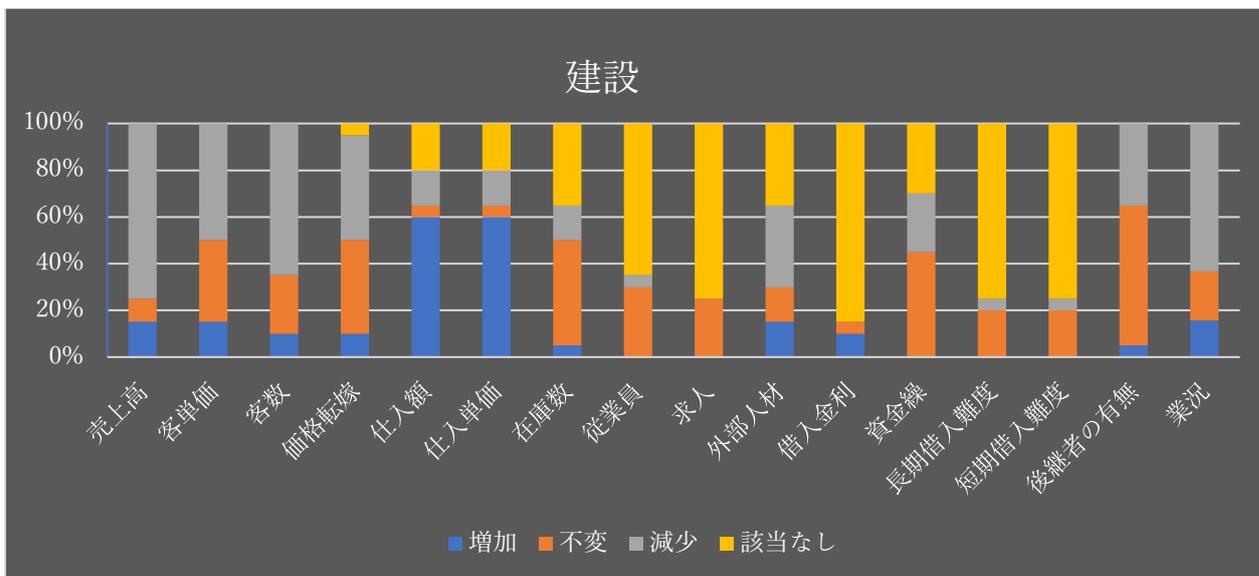
○客単価・客数が若干良化のため、売上高は増加・悪化 2 極化。

○仕入単価の増加が顕著したが、価格転嫁は進んでいない。

○業況は良化、維持、悪化がほぼ同数で均衡。

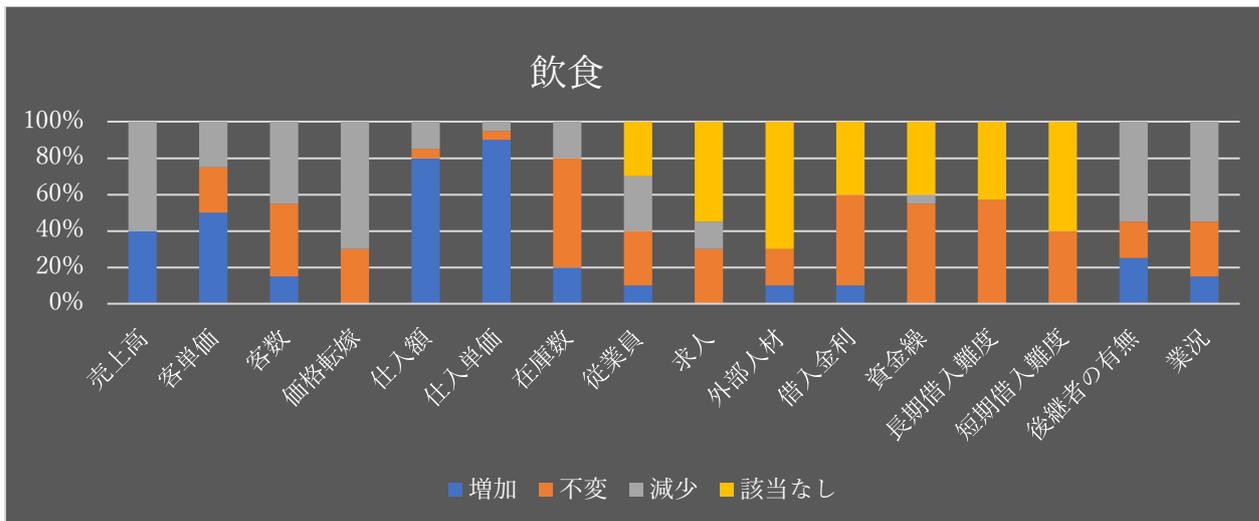
○後継者は不要との率が高い

【建設】



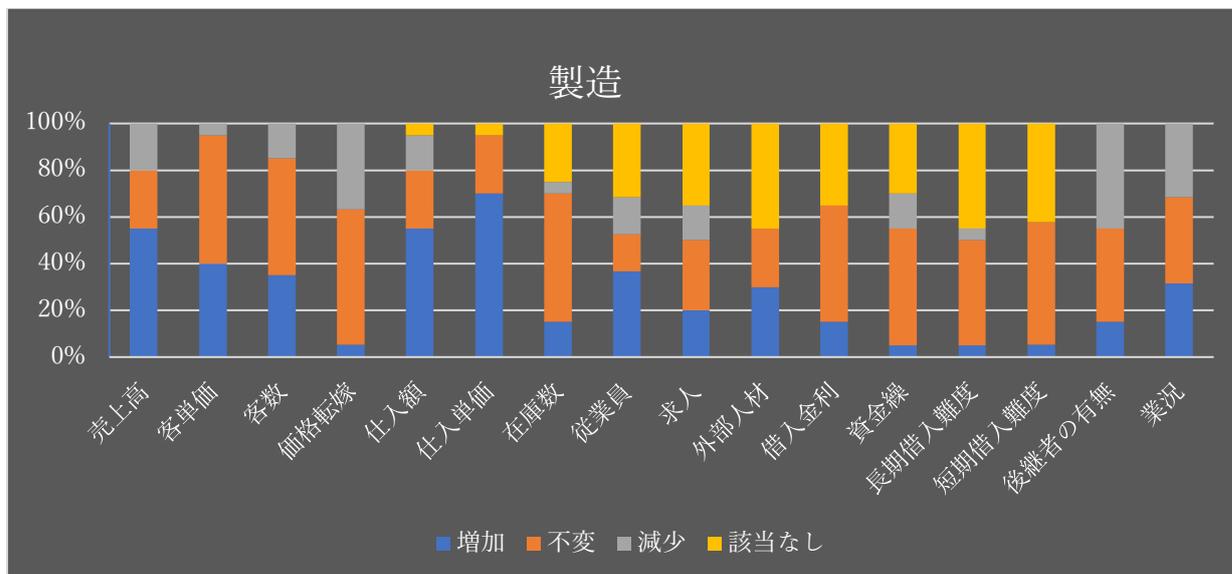
- 客単価・客数とも、減少し、売上高も減少。業況は、悪化傾向。
- 仕入単価の上昇で仕入額増だが、価格転嫁はできていないもしくは困難との回答が多い。
- 後継者は必要だがいない率が高い。

【飲食】



- 客単価は上昇。客数は維持と減少が拮抗。売上高は、増加と減少に2分化。
- 仕入単価の上昇が顕著。
- 価格転嫁は進んでおらず、困難との回答が多い。
- 後継者はいるか、不要との回答が多い

【製造】



- 客単価は上昇。客数も拡大気味で、売上高は上昇傾向。
- 仕入単価は上昇しているが、価格転嫁は進んでいない。
- 後継者は、必要だがいない/不要 が均衡。
- 業況は好転・不変・悪化3分化。

【コメント】

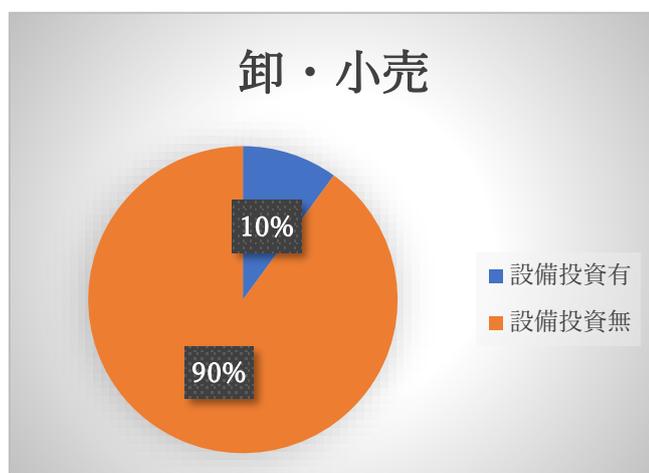
- 全業種とも仕入単価の上昇が顕著であるが、価格転嫁は進んでいない。
- サービス業、飲食、製造は売上が増えた比率が他業種に比べて高い。
- 前回調査に比べて、建設業は業況が好調から悪化傾向へ変化。
- 金融・資金繰状況は、不変もしくは対象外の割合が高い。
- 製造は売上が増加している企業が半数を超え、業況が良化傾向にある。

【共通の傾向・課題】

- 総じて、仕入れ単価の上昇が顕著であり、客単価の上昇が追い付いていない。
- 特徴のあるサービス・商品で、客単価の上昇と価格転嫁を図っていく必要がある。

4. 2 設備投資

【卸・小売】



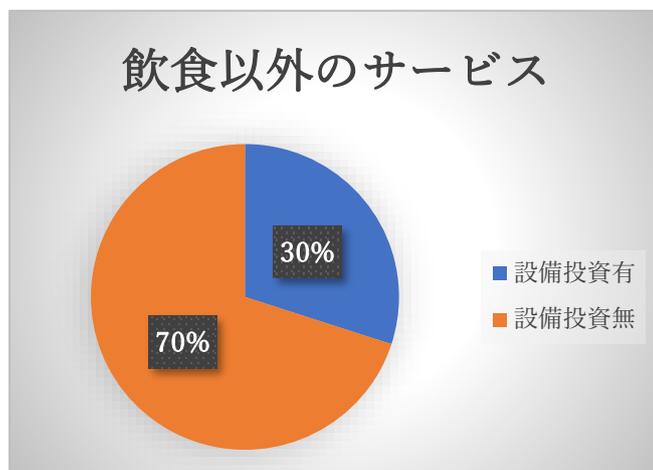
○投資は 2 事業者。

○投資内容

販売設備 1

その他 1

【飲食以外のサービス】



○設備投資は 6 事業者 7 件。

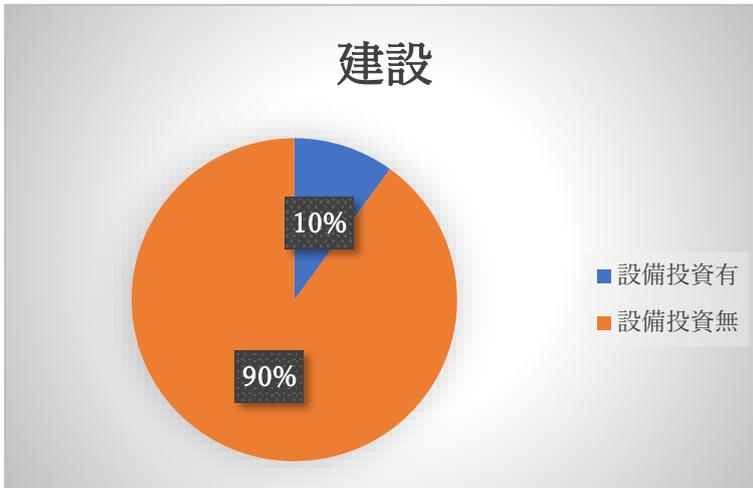
車両・運搬具 2

付帯設備 2

その他 3

(付帯設備 1 とその他 1 は同一事業者)

【建設】

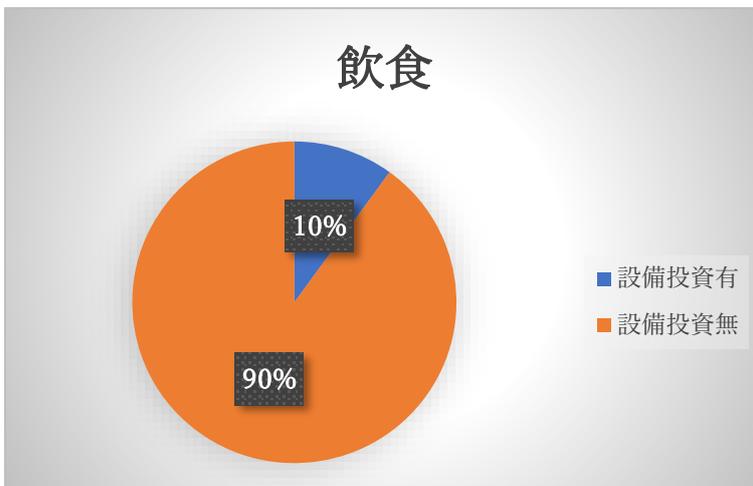


○投資は 2 事業者。

○投資内容

車両・運搬具 2

【飲食】



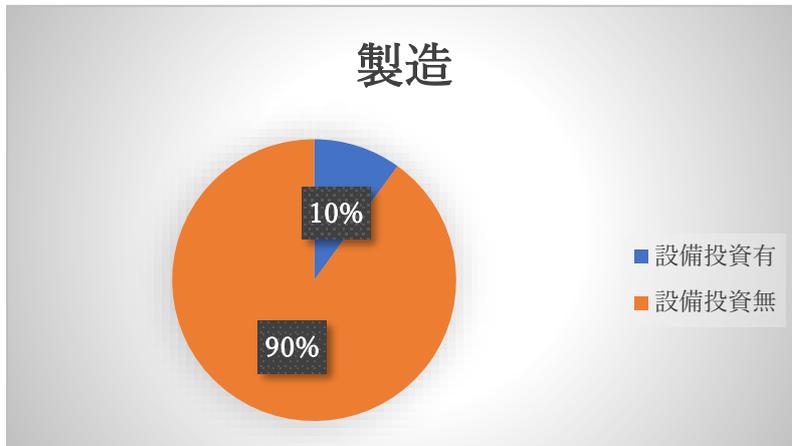
○投資は 2 事業者。

○投資内容

店舗 1

販売設備 1

【製造】



○投資は 2 事業者

○投資内容

販売設備 1 (検査装置)

車両・運搬 1

【コメント】

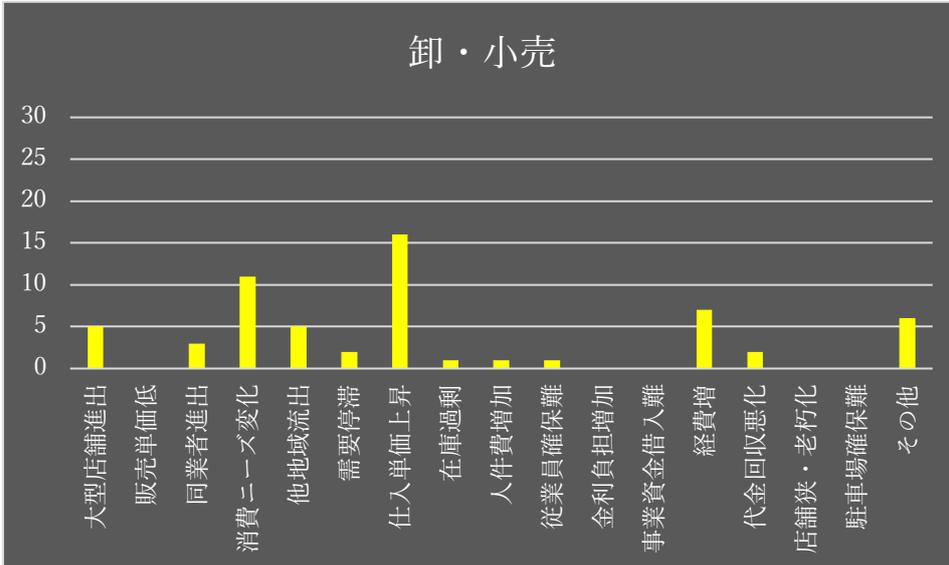
○前回調査では製造が 6 社と最多だったが、今回は飲食以外のサービスが 6 件と最多。

【共通の傾向・課題】

○DX、省人化等での生産性向上、新ニーズへの対応 等の投資ができておらず、縮小均衡（ギリ貧）となるリスクがある。補助金等の活用を検討していただきたい。

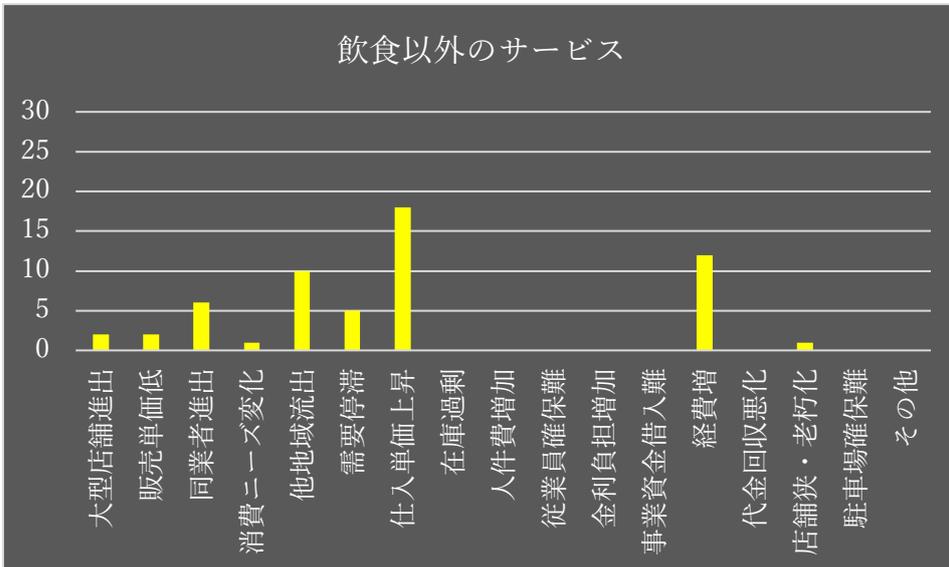
4. 3 現在直面している経営上の問題点 (1位: 2ポイント 2位: 1ポイント)

【卸・小売】



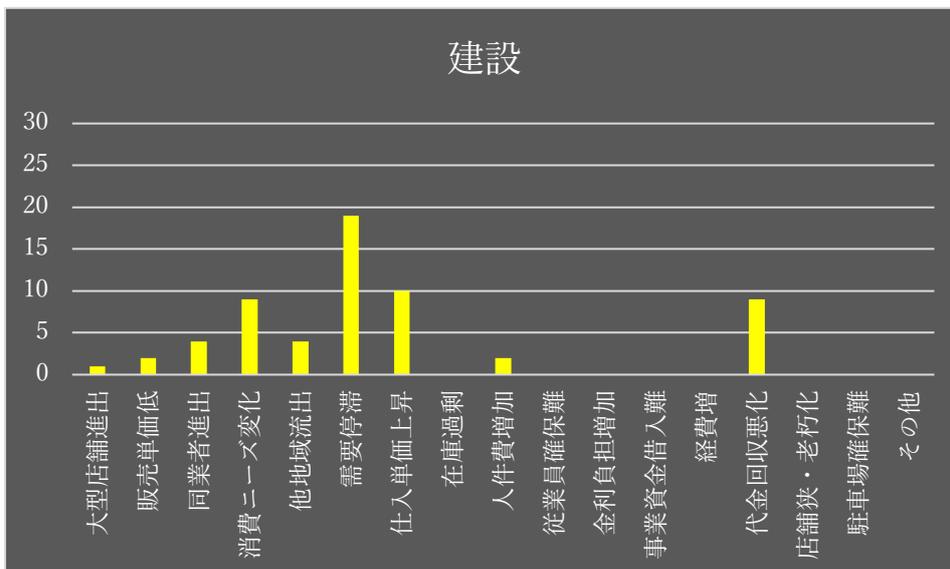
- 仕入単価上昇が最懸念事項。
- 消費ニーズの多様化も気になるところ。

【飲食以外のサービス】



- 仕入単価上昇が最も気になるところ
- 他地域への流出と経費増も気になる

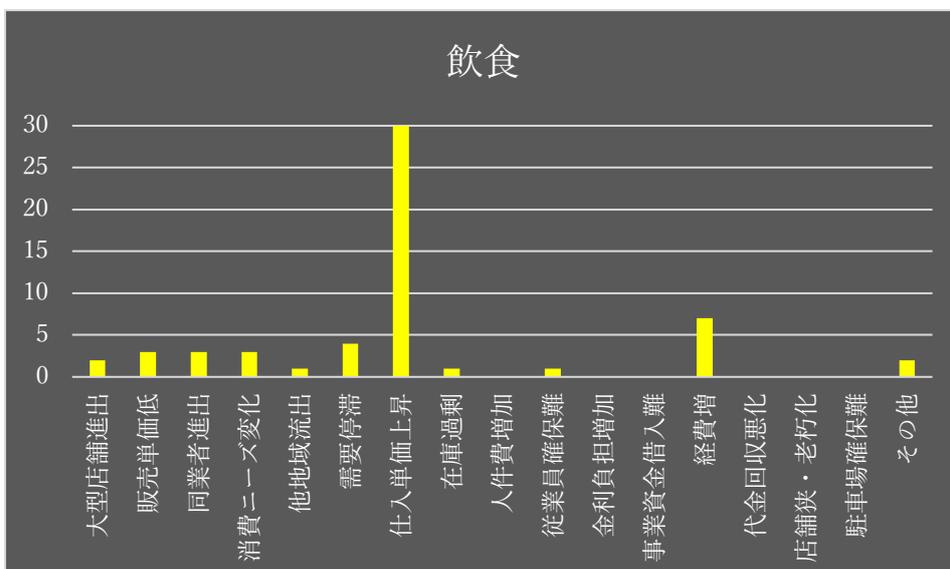
【建設】



○需要停滞が最もきになるところである

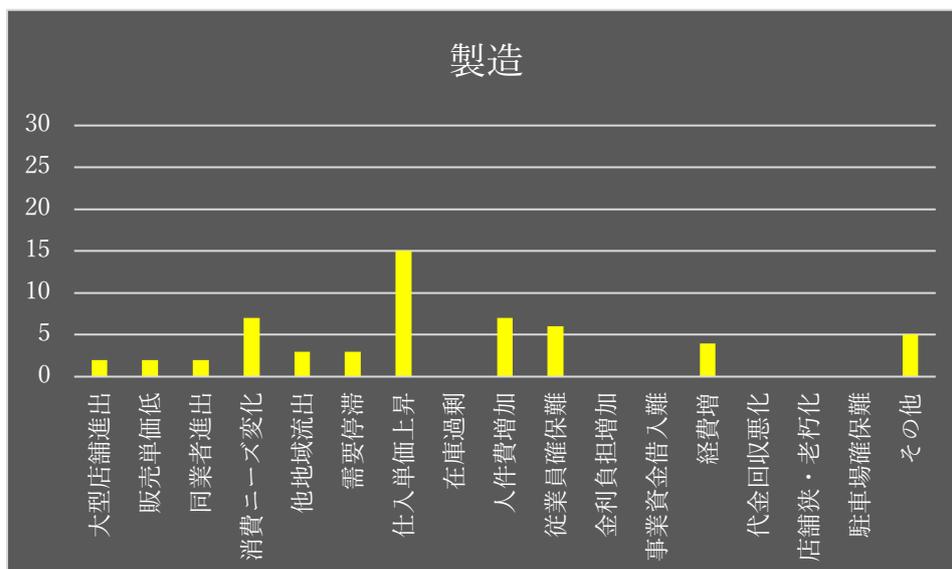
○仕入単価上昇・消費ニーズの多様化と代金回収悪化も気になるところ。

【飲食】



○仕入単価上昇が圧倒的に多い。

【製造】



- 仕入単価上昇が最懸念事項
- 消費ニーズの変化も気になる

【コメント】

- 仕入単価上昇が、建設で2位、その他の業種では1位。
- 全かと比べて、大型店舗進出の脅威を感じている事業者は減少。
- 建設は、需要停滞が最多で、前回調査と異なる。
- 製造以外は、従業員確保の悩みが少なく、少人数で回せる体制が整ったか可能性あり。

【共通の傾向・課題】

- 仕入単価上昇が最も懸念事項。価格転嫁の取組を進める必要がある。
- 従業員確保(求人)のニーズは、一段落。